

# 自由民主党国土強靱化総合調査会レポート NO.30

自由民主党国土強靱化総合調査会（会長：二階 俊博衆議院議員）の第三十回会合が下記の通り開催されましたのでご報告致します。

1. 日 時 平成 24 年 5 月 18 日（金）8:00～9:00

2. 場 所 党本部 707 号室

3. 参加者 二階俊博会長、町村信孝顧問、武部勤会長代理、林幹雄筆頭副会長、佐藤信秋副会長、脇雅史副会長、福井照事務総長、吉野正芳常任幹事、谷公一幹事、泉信也参与、伊東良孝、今村雅弘、木村太郎、北村誠吾、小泉龍司、高村正彦、谷川弥一、土屋正忠、磯崎仁彦、猪口邦子、大江康弘、片山さつき、金子原二郎、岸信夫、伊達忠一、中原八一、松村祥史、山本順三（順不同）

代理参加 古賀誠顧問、山東昭子顧問、金田勝年副会長、三ッ矢憲生副会長、宮腰光寛副会長、鶴保庸介副会長、西村康稔常任幹事、橘慶一郎幹事、井上信治、加藤勝信、梶山弘志、城内実、近藤三津枝、菅義偉、中村喜四郎、古川禎久、松本純、村田吉隆、森山裕、石井浩郎、岩井茂樹、岩城光英、末松信介、関口昌一、谷川秀善、塚田一郎、中村博彦、野上浩太郎、古川俊治、松村龍二、松山政司、山崎正昭、若林健太（順不同）

4. 議 題 「日本列島の自然について」  
（講師）財団法人国際高等研究所所長・京都大学前総長 尾池 和夫 氏

5. 講演要旨

- ① 月の作用によって引き起こされる海水の大循環はほぼ 1000 年で地球を一巡りする。その大循環の 1000 年というのが地球の色々なことを考える 1 つの単位になる。日本は 1000 年以上の歴史を持っており、平安時代の出来事を知ることができる。平安時代の出来事と今の時代の出来事を比べることで、ちょうど 1000 年周期で同じ様なことが起こっていることが分かる。
- ② 地球上は海がほとんどであるので、水が非常にたくさんあると思っっている方は多いが、地球上の水を全て集めても月の体積よりはるかに少ない、水問題を議論する時に水は少ないという基本に立つことが大切である。
- ③ 日本列島は、太平洋プレートの移動によって南にあった島が大陸にくっつき、その後、

太平洋プレートが北西に潜り込むようになったことで大陸との間が開いて日本海ができた。そういう仕組みで島だらけの国ができているため、領海・境目を争う島が多くなることは必然とも言える。

- ④ 地震というのは地下の岩盤でズレ破壊が広がり、その破壊面から地震波が発生、そして震度分布をつくる。他の自然現象が2つのことを持ってその規模が表されるのと同じく、マグニチュードと震度と両方によって地震のことを知ることができる。
- ⑤ 今回の東日本大震災で、ビルが倒れるようなところにおいて、きちんと記録を残すことができたことは、近代国家日本としての最大の国際貢献であるといえる。また、前震を測定できたことも大きい。今回得られた記録によって、今後さらなる研究が進み、南海トラフの巨大地震の前兆を捉えることができれば、予報にもつながる。
- ⑥ 東日本大震災の特徴は連動して起こったこと。その連動するところまでは予測されていなかった。
- ⑦ 東日本大震災の発生前に余震が増加した。今、和歌山北部で余震が増えており心配。和歌山の和泉断層で発生確率が上がってきている。
- ⑧ 液状化を手当する法律が薄いことが社会問題として認識され、また、津波警報の問題もある。津波警報については警報の修正に GPS 波浪計の記録が有効利用された。
- ⑨ 女川原発が事故を起こさなかった理由の一つに、物凄く津波に厳しい市民がいたことがあると思う。普段から高い意識を持っていることが大切。
- ⑩ 復興国立公園の議論があり、その中でジオパークとして津波の爪痕を残すことができたなら、と思っている。原爆ドーム等と同じく良い観光資源になるのではないかと。教育のために残すという言い方では地元が反対することもあるが、復興のため、経済のためになるということでアピールしていくことが必要。
- ⑪ 日本列島はプレート運動によって縮んでいる。縮んだものが元に戻ることによって地震が発生する。また、盆地ができるのは活断層のおかげであり、そのため大地震は大都市の直下で起こる。活断層は調べると大体次にいつ動くかが分かってくる。活断層が危ない、危ないという話をするより、どの活断層が安全かなど、安全の情報を出していくことが重要。
- ⑫ 西日本、東北と地震の活動期に入った。日本全体が地震の活動期に入ってきている。

- ⑬ 人口予測は政府の統計で、あと 100 年で江戸時代の終りくらいになる。江戸の都市はその時代のトップの都市であった。非常にエコであったと共に災害にも強い都市であった。その特徴を学ぶということも大切である。また、MOTTAINAI と同じように「吾唯 足るを知る」の思想を日本から広めていくべきではないかと思っている。

## 6. 主な意見

- ・ 西日本に対する警鐘が非常に強かったが、東北と西日本が活動期に入っており危ないということか。先日報告された三連動地震の確率との関係等について改めて教えていただきたい。
- ・ 福島で今一番困っているのは地盤が沈下したままなことである。それにより都市下水路が平常時でいっぱいになってしまっている。元に戻るのはいづれ時間がかかるのか。
- ・ 冒頭、地球の持つ大循環のタイムスパンが 1000 年ぐらいとお話があった。使用済み核燃料を無害化するには 50000 年、人口動態は 100 年のタイムスパンで変わる。時間軸がなかなかフィットしない。そういう日本列島の上に原子力発電所を持つことに対する評価をお聞かせ願いたい。
- ・ 核燃料を使い切るのにはどのくらいの時間を要するのか。
- ・ 今回の話を聞くと、宿命的なものとして考えなければならない。普段からもう一つ生活の本拠地を持つなど、新しいライフスタイルを提唱したほうが、人生豊かになるし、安全性も確保できるということであれば、そのような議論をすすめるべき。
- ・ 北方領土はこれまで歴史的・法的に議論してきているところであるが、地球物理学的な観点からはどの様に理解したらよいか。
- ・ 五島列島福井島の鬼岳が活火山であるということで、長期的な監視等が必要な状況である。今後どの様に監視し、どの様な考え方で取り組んでいけばよいか教えていただきたい。

## 7. 尾池和夫 講師の主な著書

- ・ 「日本地震列島」 (朝日文庫)
- ・ 「日本のジオパーク」 (ナカニシヤ出版)
- ・ 「新編 活動期に入った地震列島」 (岩波科学ライブラリー)
- ・ 「日本列島の巨大地震」 (岩波科学ライブラリー) 等

## 8. 今後の予定

- 日 時 6月13日(水) 午前8時～
- 場 所 党本部 707号室
- 議 題 「国土の強靱化とは(仮題)」  
講師：日米・国際モデル研究所所長、  
国際大学・筑波大学名誉教授 宍戸 駿太郎 氏

## 9. 調査会の主な動き

本調査会は、長期間にわたり持続可能な国家機能・日本社会の構築を図るため、議論を重ねてまいりましたが、この度、関係の皆様のご指導・ご協力をいただき、議員立法にて「国土強靱化基本法案」(下記アドレス・別紙参照)を国会提出(6月4日(月))致しましたので、ご報告させていただきます。

【自由民主党ホームページ】

<http://www.jimin.jp/activity/colum/117116.html>

(コラム)

[http://www.jimin.jp/policy/policy\\_topics/117114.html](http://www.jimin.jp/policy/policy_topics/117114.html)

(法案)

※ご意見送付先

【事務局】自由民主党政務調査会

国土強靱化総合調査会 担当

TEL : 03-3581-6211

(内線5425)

FAX : 03-3581-6700

E-MAIL : kokudo-kyojinka@mail.jimin.jp

以上